

國學院大學學術情報リポジトリ

オンライン時代の神道研究と教育：
神道と日本文化の国学的研究発信の拠点形成：
21世紀COEプログラム

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 國學院大學21世紀COEプログラム「神道と日本文化の国学的研究発信の拠点形成」 公開日: 2024-06-24 キーワード (Ja): 170.4, 神道 シントウ キーワード (En): 作成者: 井上, 順孝, 色, 音, コベル, スティーブン, キンレ, ペトラ, 小松, 和彦, ビュテル, ジャン＝ミシェル, ベンテリー, ジョン・R, 國學院大學21世紀COEプログラム メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/0002000505

第4回国際シンポジウム

オンライン時代の神道研究と教育

開会の挨拶

井上順孝（実行委員長）

【井上】 それでは、そろそろ時間になりますので、COEプログラムによります国際シンポジウムを始めさせていただきます。

最初に趣旨説明ということで、今回のシンポジウムの概要について説明させていただきます。このシンポジウムは、これまで3回行ってまいりました国際シンポジウムの成果に基づいて企画したものでございます。最初のシンポジウムは「各国における神道研究の現状と課題」ということで、2003年の3月に行いました。このときには神道研究というものが、それぞれの国でどういう状況にあるかということ把握するためのものでした。

2回目には「神道はどう翻訳されているか」ということで、国外において神道の基本的な用語・概念というものがどのように訳されており、それが我々にとってどういう意味を持つかということも議論いたしました。

そして、昨年は「〈神道〉の連続と非連続」をテーマとしました。これは神道研究にとってはかなり大きな問題なのですけれども、果たして神道という宗教が日本にずっと古代より現代まで続いて存在してきたと、とらえられるのかどうかという大変大きな問題。日本の神道研究の人は基本的にはこれは自明のこととしているのですけれども、国外においては必ずしもそういう見方ではない。むしろ近世、場合によっては近代によってつくられた新しい宗教であるという考えすらあるわけです。そういうことをめぐっての議論を行いました。

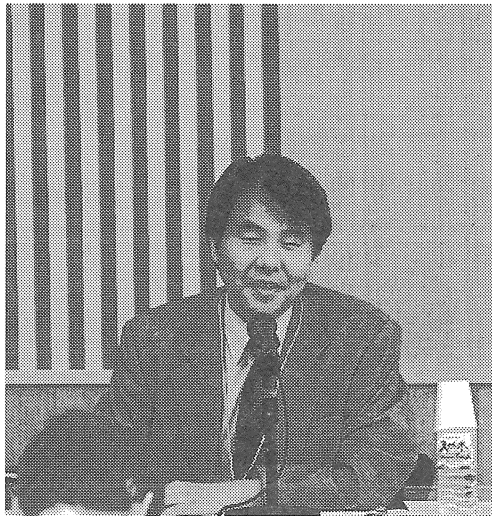
おおむね、この3回までのシンポジウムというのは、いわばこれまでの神道研究というものがどうであり、そして各国でどのような視点からなされているのかということを中心焦点として行いましたけれども、今回は、むしろこれからの研究のあり方というものに焦点を置こうということで、このようなタイトルにいたしました。

このCOEプログラムには3つグループがあるのですが、その第3グループ、「神道と日本文化の情報発信と現状の研究」グループに属しております。そこではこの国際シンポジウムと並行いたしまして、『神道事典』の改訂英訳ということを行ってきております。ことしの3月からようやく一部オンライン化が実現いたしまして、そうした状況を踏まえながら、こういう国際シンポジウムにも我々がやっていることを有機的に関連させていこうという意図も含めました。

この『神道事典』の英訳したもののオンライン版というのは、既にごらんになった方が多いかと思いますが、今日はいろいろな設備がありますので、ちょっとそれをお見せして説明をしたいと思います。

これが「Encyclopedia of Shinto」という、英訳されたもののサイトでございます。国

学院大学のトップページから 21 世紀COEプログラムというところに入りまして、さらにこの事典のところに飛んでいただくと、こういうところになります。まだ残念ながら全部アップロードできておりません。これからいろいろ編集作業を経て、少しずつ増やしていきます。10 月にはもうひとつチャプターが増える予定であります。これはもとの事典の英訳のみならず、いろいろなリンクを新しくつくっております。



それから将来的に計画していることも申しますと、たとえばこれは外国人研究者のためにということで、日本語をローマナイズした項目名には音声も入れようと。アルファベットを読めば発音はだいたいわかるといえばわかるのですが、なかなかつづりによっては読みにくいところもあると思われまので、つくっております。

全体をこのようなシステムにしまして、日本人はこう読んでいるのだということもわかるようにいたします。今の段階で画像があるところを示します。クリックすると大きくなって示されます。下のほうにアクセスが出ておりまして、このテーマに関してはたとえば今の時点で 110 のアクセスがあるということです。トータルのアクセス数は下に表されます。今のところ 3 月から始めて、2 万 7,000 です。

動画も今、用意しておりまして、それもリンクさせるということで、神道研究あるいは神道に関心がある世界中の方がここにアクセスすると、基本的な情報が得られるという仕組みにしたいと考えております。だいたい次年度の末にはすべて完成する予定で今、進めております。

こういうふうに、我々のプロジェクトでも具体的に作業を進めつつあります。そうした状況、それからこの COE プログラムは、次年度で一応文科省の助成は終了ということに

なるわけですが、それで事業が終わりということではなくて、そこで形成された拠点を通して何をやっていくのかが問われます。これがむしろ正念場といえますか、ほんとうに問われることでございますので、その拠点ができたところで、一体どういうことを世界に発信していくのかということを考えなくてはならないという、非常に現実的な問題を抱えております。

3年後には本学には学術メディアセンター（略称AMC）という新しい建物と、それから新しい組織ができ上がる予定でございます。そこではこうしたCOEでの拠点を基盤として、具体的にいろいろなプロジェクトを実施していく予定であります。

今回のシンポジウムはそのような状況を踏まえています。こうした作業は決して一大学のスタッフだけでは不十分でありまして、日本のほかの研究機関あるいは国外の研究機関や研究者と緊密なネットワークを形成して、その上でいろいろなプロジェクトを立ち上げていきたいと。それを考える上で、一体どういうことが可能なのか。あるいは既にどんなものができているのか。それを研究及び教育の両面にわたって、いろいろ具体的に論議しましょうというのが今回の趣旨でございます。

今回はアメリカ、中国、ドイツから、今の具体的な状況をお話ししていただく方をお招きしておりますし、あるいは既にデータベースの先駆的なものとして、「怪異・妖怪伝承データベース」をつくられている方にその背景をお話しいただきたい。あるいは『日本書紀』を英訳された方がこれを今後どうするか。それからお札コレクションというものを構築しようとしていらっしゃる方がそのデータベースに関してどういうことをしたらいいかというご提案があります。さまざまな具体的な話が出てまいります。そういうことを通して、ぜひ今後の展望を得たいということでございますので、2日間にわたりますが、実質的な討議を行って、今後につなげたいと考えております。以上、趣旨説明ということで終わらせていただきます。